〔伊勢原地区編：大山〕

１，「山寒し・・・」の句碑：（存疑句）：大山寺不動堂の裏無明橋を渡り左

・建立：年代不詳

・場所：伊勢原市大山７２４：〔小田急・小田原線伊勢原駅下車大山ケーブル行き神奈中バス終点で下車・阿夫社行きケーブルにて大山寺下車・徒歩約５分）

【句　碑】山寒し　こころの底や　水の月

２，「花盛り・・・」の句碑：伊勢原市大山稲荷町橋　猪俣旅館　左碑群の中

・建立：年代不詳

・場所：猪俣旅館：〔小田急伊勢原駅下車　大山ケーブル行きバス終点で下車　徒歩５分〕

【句　碑】　花さかり　山は日ごろの　あさぼらけ

３，「観音の・・・」：の句碑：観音寺跡　清水屋の裏阿夫利林道口近く

・建立：大山は俳人連

・場所：〔小田急線伊勢原駅下車：大山ケーブル行き清水屋バス停で下車・徒歩約５分〕

〔句　碑〕　観音の　いらか見やつ　花の雲

（これは句碑ではありません。句碑があったと思われるところに奉ってある観音様です）

４，「雲折々・・・」：の句碑：伊勢原市大山寺境内　真言宗大覚寺派大山寺

・建立：年代不詳

・場所；伊勢原市大山　小田急・小田原線伊勢原駅下車

大山ケーブル行きバス終点で下車後、阿夫利神社行きケーブルで大山寺下車・徒歩約５分

【句　碑】雲折々　人を休むる　月見かな

〔メモ〕本尊は不動明王。高幡山金剛寺、成田山新勝寺と共にしばしば「関東の三大不動」

５，「ひばりより上に・・・」の句碑：阿夫利林道口から「いより峠」三叉路、阿夫利林道口より約2時間

・建立：年代不詳

・場所：小田急・小田原線伊勢原駅大山ケーブル行きバスにて終点で下車。

【句　碑】　雲雀より　上にやすらふ　峠かな

６，「山里は・・・」の句碑：伊勢原市高森1343・高梨慶久氏宅　庭

・建立：年代不詳

・場所：〔小田急線伊勢原駅北口下車・愛甲石田行きバスにて高森団地入口下車徒歩約１０分〕

〔句　碑〕山里は　万歳おそし　梅の花

７，「何の木の・・・」の句碑：東富岡八幡神社　鳥居右〔祭神：誉田別命〕

・建立：年代不詳

・場所：伊勢原市東富岡３５５：〔小田急線伊勢原駅北口下車、愛甲石田行きバス東海大学病院下車徒歩１５分

（句　碑）何の木　花とは知らず　匂い哉

〔大山阿夫利神社の由来〕

大山阿夫利神社（おおやまあふりじんじゃ）は、今から二千二百余年以前の人皇第十代崇神天皇の御代に創建されたと伝えられている式内社でございます。　古くから相模国は許より関東総鎮護の霊山としてご崇敬を集めて参りました。海抜一二五一米の山頂からは、祭祀に使われたと思われる縄文土器が出土しており、当山の歴史の古さを物語っております。

大山は、別名「あめふり山」とも呼ばれ広く親しまれてきました。このあめふりの名は、常に雲や霧が山上に生じ、雨を降らすことから起こったと云われ、古来より雨乞い信仰の中心地としても広く親しまれて参りました。

奈良時代以降は神仏習合の霊山として栄え、延喜式にも記される国幣の社となりました。そして、武家の政権始まった後も源頼朝公を始め、徳川家等の代々の将軍は当社を信仰し、そして武運長久を祈りました。庶民からの崇敬も厚く、人々は「講」という組織を作り挙って大山へ参拝をしました。隆盛を極めた江戸期には年間で数十万が訪れたと記録されています。「大山詣り」と呼ばれた当山への参詣は古典落語の中でも語られ、著名な浮世絵師によって多くの浮世絵も残されています。そうした作品に描かれた躍動感溢れる人々の姿からも、いかに大山が当時の人々にとって身近な存在であったかを窺い知ることが出来ます。

また人気を博した大山詣りを背景に、多くの独特な文化が生み出されたことも大山の特徴です。源頼朝公が刀を納めた事から起こった木太刀を納める納太刀、当社の御祭神が富士山の御祭神である木花咲耶姫の父君に当たることから「富士に登らば大山に登るべし、大山に登らば富士に登るべし」と伝えられ、大山と富士山の両山をお参りする「両詣り」も盛んに行われました。一部地域では、大山に登れば一人前として認められると伝承されていたとも云われ、立身出世の神としても知られています。他にも一年の天候を占い農作物の豊凶を占う筒粥神事、天地の魔と穢れを祓う引目祭、夏の山開き、火祭薪能などの多種多様な神事が現在も行われ、三百年以上の伝統を誇る大山固有の大山能、そして巫女舞、倭舞も今に継承されております。

阿夫利神社は、古代から人々の心の拠り所となり、国を護る山・神の山として崇められてきました。

山野の幸をつかさどる水の神・山の神として、また、海上からは羅針盤をつとめる海洋の守り神、さらには、大漁の神として信仰をあつめると共に、山岳信仰の中心として、今日に及んでいます。

春は花、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪と四季折々に彩られるこの大山は今もなお、伝統と文化を継承し続け、参拝をする人が絶えません。　〔ＨＰより引用